



保健師だよ



～女性の健康週間～

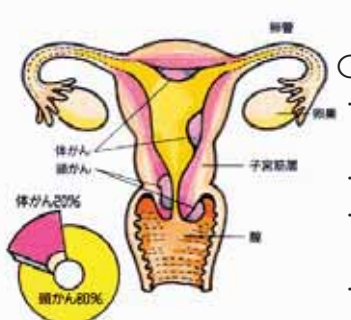
3月1日～3月8日は女性の健康週間です

厚生労働省では、毎年3月1日から3月8日までを「女性の健康週間」と定め、女性が生涯を通じて健康で明るく充実した日々を自立して過ごすために、社会で総合的に支援していく国民運動を展開しています。今回は子宮がんについてお伝えします。

☆子宮頸がんと子宮体がんの違い

○子宮頸がん

- ・子宮の入り口である頸部の表面から発生する
- ・30～40歳代の発生率が高い
- ・子宮頸がんの多くは性交渉で感染するHPV（ヒトパピローマウイルス）と関連がある
- ・初期は症状がほとんどない

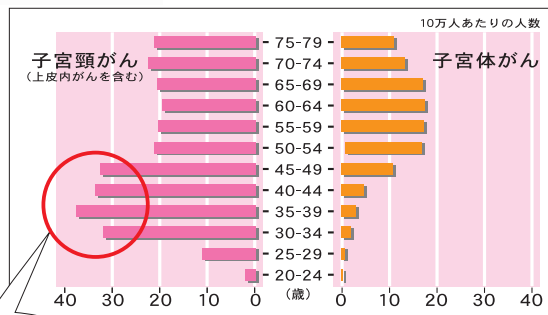


○子宮体がん

- ・子宮の上部にある体部の内膜から発症する
- ・50～60歳代の発生率が高い
- ・発症には女性ホルモンの一種であるエストロゲンが深く関わっている
- ・初期の症状として不正性器出血がある

☆子宮頸がんは若年層での発生が増加しています

子宮頸がんは30～40代に多く20～30代で増加傾向にあります。HPV自体は性交渉の経験のある女性の5人に4人が感染するほどありふれたウイルスで20代でも油断は禁物です。通常は免疫によって排除されるため、がんにはならないのですが、複数の因子が加わることによってがんへ発展します。初期でほとんど症状が出ないため、定期検診によって発見するしかありません。



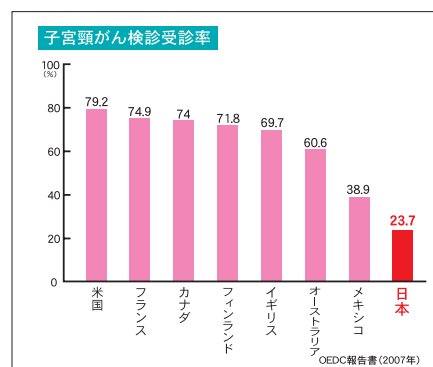
若年層で急増！

出典：国立がんセンターがん対策情報センター

☆子宮がん検診を受けましょう

子宮頸がんは検診で発見しやすく、検診で予防できるがんとも言えます。しかし、右のグラフから分かるように日本人女性の子宮がん検診受診率は欧米と比べて非常に低いのが現状です。20歳以上の女性は定期的に検診を受けましょう。不正性器出血などの自覚症状がある場合は、年齢に関わらず子宮体がん検診を受けるようにしましょう。

また、閉経後に検診を受けることをやめてしまう人がいますが、子宮頸がんは閉経後も発生する危険があり、子宮体がんは閉経前より発生する危険性が高まります。定期健診は必ず受けましょう。



☆子宮頸がん予防に HPV ワクチンを接種しましょう

<子宮頸がん予防ワクチン接種について>

3月から高校1年生に相当する年齢の女子を対象に任意の予防接種である「子宮頸がん予防ワクチン」の接種を無料で実施します。

現在このワクチンは、予防接種法に定める定期の予防接種ではなく、任意の接種です。そのため、接種に当たっては、予防接種の効果ならびに副反応について適切に理解していただいた上で、保護者および本人の希望に基づき接種を行います。

（接種対象者）高校1年生に相当する年齢の女子〔平成6年4月2日～平成7年4月1日生〕

（接種開始日）平成23年3月1日 （接種費用）無料

※子宮頸がん予防ワクチンは、半年間で3回の接種が必要です。

3月31日までに1回接種した場合、高校2年生での2回目、3回目についても無料で接種できます。

※対象者へは、案内通知を送付しています。希望者は、案内をよく読んでから接種してください。

問い合わせ先 健康課健康推進係 ☎ 72-6666